

1 教育目標（目指す児童像含む）

「人間尊重」の教育を基礎とし、知・徳・体の調和のとれた心身ともに健康で、思いやりのある豊かな心を持ち、確かな学力を身に付けた社会の一員としてたくましく生きる児童を育成する。

- 情操豊かで、おもいやりのある子供（やさしく）
- 自ら学び、よく考える子供（かしこく）
- 健康で、やりぬく子供（たくましく）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

平成17年度より小規模特認校に指定され、特色ある教育活動を推進してきた結果、学校統廃合の危機を脱することができ伝統ある学校が存続できている。

今年度も児童数を維持するために、地域連携をキーワードとし、「小さな学校だからこそできること」をコンセプトにした特色ある教育活動を推進する。

宇都宮市学校教育スタンダードの「基本をしっかり！～あいさつ・朝食・漢字に計算～」の更なる定着・充実を図るために城山地域学校園での小中一貫教育を生かしながら、児童一人一人に「豊かな心」と「確かな学力」を身に付けさせていく。

具体的には、「一人ひとりを大切に授業」を中心に、5つの公約である「会話科の推進」「文化人の先生方の授業」「地域との連携」「安全でおいしい給食」「放課後活動（こがし桜スクール）」の運営を継続しつつ、特に以下の3点を柱として全職員で努力していく。

- (1) 「会話科」を継続し、「ことばの時間」や「英会話の時間、外国語活動」で培う表現力やコミュニケーション力を他教科や日常生活に生かせるようにする。特に「英会話の時間、外国語活動」の中学校への学びの連続性を持たせる指導について研究を推進する。
- (2) 「食農教育」を継続し、地域の協力を得ながら、食と農に関する学習活動や体験活動を展開する。給食農園の食材や地産地消の食材を給食に取り入れ、教職員・児童全員で食する時間を有効活用する。
- (3) 「体幹を鍛える運動」を妻木律子先生と連携しながら体力づくりの核とし、日常化を図り、児童の体力向上を推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校・地域・行政が一体となった「新たな学校の創造」を推進するために、教職員の適材適所を図り、本校の実情に即した教育課程の編成と実践に努める。また、教育者としての使命感と愛情をもった教師力の向上に努める。

(学校運営の適正化)

- (2) 児童一人一人のよさを認め、居がいのある学校・学級づくりに努める。

(学級経営の充実)

- (3) 全教職員の共通理解のもと、児童・保護者と教職員との信頼関係を深め、情操豊かな教育環境と縦割り班における異学年とのかかわりを大切に、こころ豊かでたくましい児童の育成に努める。

(豊かな心身の育成)

- (4) 基礎・基本の着実な定着を図り、体験的な学習や問題解決的な学習を通して、学ぶことの楽しさや成就感を体得させ、会話科で培ったコミュニケーション力を生かして自ら学び考える力の育成に努める。

(学習指導の充実)

- (5) 進んで運動に親しみ継続できるような手だてを工夫するとともに、保健・安全指導の充実に努める。

(体力向上と保健安全教育の充実)

- (6) ○学校・家庭・地域・行政と連携を密にしながらか、小規模特認校として魅力ある開かれた学校づくりに努める。

(魅力ある学校づくりの実現)

[城山地域学校園教育ビジョン] ともに学び合う城山っ子を育む地域学校園

4 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

<p>【 学 校 運 営 】</p> <p>① 職員研修を充実し、<u>教職員の資質向上</u>の推進</p> <p>② <u>学校・家庭・地域・行政と一層連携</u>し、小規模特認校としての開かれた特色ある学校づくりの推進</p> <p>【 学 習 指 導 】</p> <p>・確かな学力を身に付け、共に学びあう子どもの育成</p> <p>○家庭学習の習慣化（宿題プラス1）</p> <p>【 児 童 生 徒 指 導 】</p> <p>○規範意識を身に付け、自分のよさを生かしながら自信をもって行動する児童の育成</p> <p>【健康（体力・保健・食・安全）】</p> <p>・健康・体力の向上を目指し、進んで活動する児童の育成</p> <p>○中学校の部活動を見学する機会を設け、中学校進学をスムーズに行えるようにする。</p> <p>○集団行動や各種検定など中学校での活動を見据え、3小学校で共通した取り組みを行う。</p>

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	<p>A1 学校は、活気があり、明るいきいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校全体に活気があり、明るいきいきとした雰囲気である。」 ⇒児童・保護者・地域の肯定的回答90%以上</p>	<p>① 学校生活の様々な場面で縦割りによる交流活動の時間を工夫し、活動のめあてにあった支援を加えながら異学年でのふれあいの充実を図る。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <p>児童の肯定的回答率 94.1%</p> <p>保護者の肯定的回答率 96.0%</p> <p>地域住民の肯定的回答率 100.0%</p> <p>・昨年度より肯定的回答率が微減しているが90%を超える高い評価となっている。児童が休み時間等異学年で誘い合って遊ぶなど、自然に交流する姿が見られる。</p> <p>・全校生で異学年のグループで食べる給食や縦割り清掃、長縄跳びの大会などふれあいの機会を意図的にとることができた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・今後も児童の様々な活動を適切に支援しながら充実させていく。</p>
	<p>A2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「教職員は協力し、児童のよいところを認め、教えるべきことを熱心に指導している。」 ⇒児童・保護者・地域の肯定的回答80%以上</p>	<p>① 分かる授業の実現に向けて、習熟度別学習、TT、かがやきルームの活用など学習形態を工夫し一人一人を大切に指導に努める。</p> <p>② 年2回の教育相談日を設けるとともに、日々の指導の中でのふれあいや語らいの場を大切に、児童のニーズを理解したうえで、一人一人が居がい感をもって学校生活が送れるよう支援に努める。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <p>児童の肯定的回答率 99.0%</p> <p>保護者の肯定的回答率 99.0%</p> <p>地域住民の肯定的回答率 100.0%</p> <p>・習熟度別学習やTT、かがやきルームでの学習等、学習形態の工夫や2人体制での授業を指導内容や個人の状態に合わせて実施することができた。</p> <p>・年2回の教育相談週間を実施し、児童理解に生かすことができた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・分かる授業の実現に向けて、グループ学習やペア学習など学習形態を工夫する。</p> <p>・次年度も全教職員で児童の学習活動を支援し、更に個に応じた指導を心がける。</p>

<p>A3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 ⇒児童・保護者・地域の肯定的回答80%以上</p>	<p>① 「城西小よい子の一日」を見直し、教職員が足並みをそろえて、粘り強く児童を指導していく。</p> <p>② <u>児童が秩序ある安全な学校生活を送れるように、年間を通してクラスの行動目標を決めて指導していく。</u></p> <p>③ 学級だけでなく週に1度の一斉下校や集会・朝会等の場を活用して、児童のよさを学校全体でほめることで、きまりを守る大切さを理解させ、やる気を引き出していく。</p> <p>④ 代表委員会や運営委員会を活用し、児童の中からきまりやマナーについて呼びかけるような場を設定していく。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>児童の肯定的回答率 86.1% 保護者の肯定的回答率 96.0% 地域住民の肯定的回答率 100.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「城西小よい子の一日」について、教職員が共通理解し、児童への指導を粘り強く重ねてきた。 ・代表委員会や運営委員会を活用して、児童が主体となってきまりやマナーについて呼びかける場を設定することができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度も「城西小よい子の一日」について児童と確認しながら目標を決めて指導していくとともに、児童のよさを認める場を設定し、児童に自信を持たせるようにする。 ・次年度も、代表委員会等、児童主体となってきまりやマナーについて考える場を設定していく。
<p>A4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、児童一人一人が理解できるように教材を工夫するなどきめ細かな指導をしている。」 ⇒児童・保護者・地域の肯定的回答90%以上</p>	<p>① 少人数のよさを生かし、一人一人のつまずきに応じた個別指導を行うとともに、習熟度別学習、TT、かがやきルームの活用など学習形態を工夫し、一人一人を大切にしたい指導に努める。</p> <p>② 朝の学習や昼の英会話タイムを2人体制で行い、一人一人のつまずきに応じた指導を行う。</p> <p>③ 分かる授業の実現に向けて、学習のめあてや振り返りを大切に扱い、ペア学習やグループ学習など学習形態を工夫する。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>児童の肯定的回答率 100.0% 保護者の肯定的回答率 94.7% 地域住民の肯定的回答率 100.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人に応じた個別指導に力を入れ、習熟度別学習やTT、かがやきルームでの学習等、学習形態の工夫や2人体制での授業を行うことができた。 ・よい子の一日学習編を活用し、教職員の共通理解のもと、2人体制での朝の学習や英会話タイムを実施することができた。 ・各授業では、学習のめあてを明確にし、授業の終末にはめあてに対する振り返りを書かせるなどして、全体で課題を共有し、全員が分かる授業の実現を目指した。 ・進級し担任が変わってもスムーズに学習に取り組めるよう、授業におけるルールの一貫を図った。(例:指名されたら返事をして立ち、発言する。板書の色使いを統一する等) <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のめあてや振り返りを大切に扱い、全児童がわかる授業の実現を目指す。 ・かがやきルームや習熟度別学習の指導員と担任がより連携を図りながら個に応じた指導を継続する。

<p>A5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は、いじめ対策を積極的に公表し、熱心に取り組んでいる。」 ⇒児童・保護者・地域の肯定的回答80%以上</p>	<p>① 児童集会等ではいじめは絶対ゆるされないことであるという指導を行う。</p> <p>② 教育相談やアンケートを実施し、いじめの起こらない環境づくりを推進する。</p> <p>③ 児童の些細な変化を見逃さないように教職員間の情報を共有し指導にあたるようにする。</p> <p>④ 学校だより等及び学級懇談会等を活用し、いじめ防止について情報を共有する。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>児童の肯定的回答率 100.0%</p> <p>保護者の肯定的回答率 89.5%</p> <p>地域住民の肯定的回答率 100.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめに関するアンケートや教育相談の実施から、児童の実態を把握し、いじめの未然防止に努めることができた。 昨年度に比べ、保護者の肯定的回答率が6.5%アップすることができた。児童指導便りや学校・学年便り等で情報を発信してきた成果と思われる。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 次年度も「児童指導だより」等で、具体的な取り組みを紹介したり、いじめに関するアンケートの結果や教育相談の結果について、積極的に情報を発信したりしていくようにする。 今後も電話連絡やお迎えの時間を活用し、学校での様子について保護者に伝え、連携して対応していくようにする。 いじめに関するアンケートや教育相談を計画的に実施したり、いじめ根絶集会を開いたりすることにより、いじめの未然防止に努める。
<p>A6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校の日課、授業、行事などは、適切に実施されている」 ⇒児童・保護者・地域の肯定的回答80%以上</p>	<p>① 城山地域学校園と連携し、義務教育9年間の中で児童が系統的に学習できるように、<u>小中一貫教育の時に沿って教育課程を編成する。</u></p> <p>② 児童が落ち着いて学習できる授業時数を確保するため、夏季休業を1日間短縮する。英会話タイムと5校時の間に5分間の授業準備時間を確保する。</p> <p>③ 教育課程の総時数にゆとりをもたせ、各活動を教育課程上に明確に位置づける。</p> <p>④ 学校行事は、必要に応じて評価し、改善すべき点について検討して次年度に生かす。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>児童の肯定的回答率 93.1%</p> <p>保護者の肯定的回答率 100.0%</p> <p>地域住民の肯定的回答率 100.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> 特色ある教育活動や会話科などを教育課程上に位置づけ適切に実施できた。 高学年の外国語活動において英会話タイムを計上して時数を確保できている。 5分間準備時間ができたことで5時間目の開始が円滑になった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業時数の確保のため夏季休業中の短縮を行う。 昼休みと清掃の間の移動・準備の時間をより明確にする。 学校行事の日程・実施については今年度の反省を生かしていく。
<p>A7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している。」 ⇒保護者・地域の肯定的回答90%以上</p>	<p>① 授業参観や学校自由参観を実施したり、学校行事等への積極的な参加を呼びかけたりして、保護者や地域の方々に学校活動を公開する。</p> <p>② 学校便りや学年便り、その他各種の便りの中で教育活動を具体的に紹介するとともに、ホームページを更新し、よりタイムリーな情報を広く発信できるようにする。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>保護者の肯定的回答率 99.0%</p> <p>地域住民の肯定的回答率 100.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業参観だけでなく、ふれあい給食などの学校行事にも参加を呼び掛けたことで、学校の様子を見ていただく機会となった。ホームページの更新でも学校の様子を発信することができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域や保護者に学校理解を深めていただけるよう、引き続き各種便りの配付や、ホームページの更新に努めていく。

<p>A8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った学校づくりが推進されている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒児童・保護者・地域の肯定的回答80%以上</p>	<p>① 孝子桜まつり・古賀志山清掃登山・地域合同運動会などの行事を、学校・保護者・地域が連携して実施する。</p> <p>② 地域コーディネーターを中心に学校を支援するボランティアを募り、<u>学校・家庭・地域との連携、協力を深め、開かれた学校づくりに努める。</u></p>	<p>【達成状況】</p> <p>児童の肯定的回答率 96.0% 保護者の肯定的回答率 99.0% 地域住民の肯定的回答率 100.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 数多くある地域との行事は、実行委員会や文書などの連絡を通して、学校・地域・保護者が協力し連携し合って実施できた。 ・ 地域コーディネーターと連絡を密にとり、学校を支援するボランティアを募り、様々な協力をしていただけた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の充実した活動が今後も継続していけるよう地域コーディネーターと協力・連携し、開かれた学校づくりを推進していく。
<p>A9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は、荷物や備品が整理・整頓されるなど、学習しやすい環境である。」 ⇒児童・保護者・地域の肯定的回答80%以上</p>	<p>① 自分たちが生活する環境を、全員で協力してよりよくしていこうという意識を委員会活動に生かしながら高め、縦割り班清掃を実施する。</p> <p>② 情操豊かな環境の中で生活できるように、教職員同士の意見交換・伝達をしながら掲示等を工夫する。</p> <p>③ 日頃から、校舎内外の巡視に努めるとともに、毎月安全点検を実施し、必要な箇所の修理・修繕を迅速に行うなど、学校教育環境の整備に努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>児童の肯定的回答率 95.0% 保護者の肯定的回答率 95.9% 地域住民の肯定的回答率 100.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の清掃への取り組みの意識が高く、校舎内がきれいになった。 ・ 各教室担当者が、季節や学習内容に応じた掲示を工夫していた。 ・ 安全点検で必要などころは、迅速に報告し、修理・修繕を行うことができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度に引き続き、環境委員会で清掃用具の点検をしたり、清掃の仕方を啓発したりすることで、学校全体で清掃に関する意識を高められるようにする。また、各清掃場所による清掃時間の開始時刻、終了時刻の共通理解を図る。 ・ 安全点検は、今年度同様丁寧に行い、掲示物は教職員同士で意見交換をして工夫・整備をする。また、伝達をしっかりとっていく。
<p>A10 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小学生や中学生が連携した取組を主体的に行っている。」 ⇒保護者・地域の肯定的回答80%以上</p>	<p>① 小中合同あいさつ運動、小中乗り入れ授業、6年生の中学校訪問など小中合同で行う取組を確実に実施し、活動の様子を各種便りやホームページで公開するよう努める。</p> <p>② 地域学校園内での各校の学校課題等の研修に積極的に参加し、協力して研修を進めていく。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>保護者の肯定的回答率 85.7% 地域住民の肯定的回答率 100.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 乗り入れ授業や中学校訪問など児童にとって分かりやすく、効果的な活動であった。 ・ 今年度は保護者の肯定的回答率がやや上がった。今後も活動の様子を周知していく。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 回数的には減っていくが、内容等をよく検討しより有効な活動にしていきたい。 ・ 地域学校園内での授業研究の機会の共有がされて、今後も継続していきたい。

	<p>A11 多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 専門的な業務において、学校図書館司書、AET、かがやきルーム指導員、スクールカウンセラーを活用することにより、業務を縮減できるように工夫する。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答率 95.2%</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校図書館司書・AET・食育など専門性を必要とする業務において、授業内容についての相談・助言、多くの資料の準備など、教員だけでは困難なことも連携・協働して実施でき大変効果的であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も多様な専門性を有する学校スタッフと協力・連携して業務の縮減だけでなく、効果的に教育活動を行えるようにしていく。
	<p>A12 教員は多様な専門性を有する学校スタッフと円滑なコミュニケーションが図れている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「教員は多様な専門性を有する学校スタッフと円滑なコミュニケーションが図れている。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 専門的な業務において、学校図書館司書、AET、かがやきルーム指導員、スクールカウンセラーと連携・協働しながら効率的・効果的に業務を進めるように努める。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答率 100.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な専門性を有する学校スタッフと教員が、円滑にコミュニケーションを図ることができ、効果的に連携することができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き円滑にコミュニケーションが図れるようにし、より充実した教育活動が行えるように工夫していく。
<p>教育活動の状況</p>	<p>A13 児童は、進んであいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童・保護者・地域の肯定的回答80%以上</p>	<p>① 「いつでも・どこでも・だれにでもさわやかあいさつ」の合い言葉のもと、児童会を中心に城山中学校区地域学校園で歩調をそろえてあいさつ運動を継続するとともに、登校指導の場を利用して保護者も巻き込んだあいさつ運動を実施していく。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 95.0% 保護者の肯定的回答率 91.0% 地域住民の肯定的回答率 100.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度に比べ、保護者の肯定的回答が8.0%、地域住民 5.3%アップすることができた。生活目標に掲げたり、会釈リーダー認定を行ったりするなど、継続して指導した成果と考えられる。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後もあいさつが習慣化するように、日頃から粘り強く指導を継続していく。 児童会を中心としたあいさつ運動を継続するとともに、城山地域学校園のあいさつ運動を活用し、指導をしていく。 学年便り等で家庭にも協力を呼びかけ、保護者と連携して指導をしていく。

<p>A14 児童は、正しい言葉づかいをしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている。」 ⇒児童・保護者・地域の肯定的回答80%以上</p>	<p>① 全職員が丁寧な言葉づかいで児童と接するとともに、児童の言葉づかいについても共通理解をもって指導する。</p> <p>② 学級活動、道徳などを通し、目上の人に対する言葉遣いなど、具体的な場面を設定して指導する。</p> <p>③ 家庭や地域との連携も密にし、相手を尊重し、適切な言葉遣いができるよう児童を指導する。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>児童の肯定的回答率 84.2%</p> <p>保護者の肯定的回答率 79.0%</p> <p>地域住民の肯定的回答率 92.9%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者の肯定的回答率が、昨年度に比べ9.0%上回る事ができたが、数値目標の80%に届かなかった。また、児童の肯定的回答率が5.9%下がってしまった。 ・ 児童と周囲の大人との距離が近く、アットホームな雰囲気であることは、本校のよさであるが、その分普段の生活の中で適切な言葉遣いが十分ではない児童が見られる。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員が率先して丁寧な言葉で話しかけていく。正しい言葉遣いができていない場合には、その場で指導していく。授業中や職員室での対応など、公の場での言葉遣い重点を置いて、細かな指導を根気強く継続して行っていく。 ・ 次年度も学活や道徳の時間を通し、目の上の人に対する言葉遣いなど、具体的な場面を設定して指導する。 ・ 代表委員会や運営委員会を活用し、児童が主体となって呼びかけていく場を設定する。
<p>B1 豊かな心のふれあいができる仲間づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は友達にやさしく接し、異学年の友達とも遊んでいる。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答80%以上</p>	<p>① 道徳の時間の指導を要とし、各教科領域、特に児童指導との連携をとりながら、教職員が共通理解のもとに足並みをそろえて児童の規範意識を高めていく。</p> <p>② 縦割り班での活動や共遊の時間を大切に、児童同士あるいは児童と教師が豊かな心のふれあいができるようにする。</p> <p>④ 会話科(ことばの時間)の学習を通して、コミュニケーション力を高め、互いの気持ちを伝えられるようにする。</p> <p>⑤ 盲学校との交流を継続し、心のふれあいを深められるようにする。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>児童の肯定的回答率 92.1%</p> <p>保護者の肯定的回答率 96.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 縦割り班での活動や異学年との給食の時間などの活動により、児童間や児童と教師の心のふれあいができた。 ・ 道徳科の指導方法を工夫したり、他の教科領域と関連させたりして、道徳教育の充実に努めた。 ・ 教職員が共通理解のもと、一斉下校時に児童指導主任が相手を思いやることについての話をする機会を設け、児童指導を行うことができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次年度も、運動委員会や運営委員会等の活動を活用し、異学年での交流を更に深められるようにする。 ・ 会話科(ことばの時間)の学習を通して、コミュニケーション力を高め、互いの気持ちを伝えられるようにする。 ・ 盲学校との交流を継続し、心のふれあいを深められるようにする。

<p>A15 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は休み時間や放課後などに積極的に運動している。」 ⇒児童・保護者・地域の肯定的回答80%以上</p>	<p>① 新体カテストの結果を分析して、児童が自分にあった体力づくりに励むよう指導する。</p> <p>② 学校、学年だよりを活用し、児童の外遊びの様子を紹介したり、家庭でも積極的に運動に取り組んだりするよう促していく。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 97.0% 保護者の肯定的回答率 88.5% 地域住民の肯定的回答率 100.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度よりも児童、保護者の肯定的回答率が大幅に上回ることができ、特に保護者では昨年度から16%も肯定的回答率を上昇させることができた。 ・ 運動委員会を中心とした全校共遊や、全校児童で元気っ子チャレンジに参加することで、運動する機会を意図的に設けることができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新体カテストに向け、各学年の課題について各担任と情報を共有し、体力の向上を引き続き図っていく。 ・ 学校、学年だより、学級懇談会等を使い、児童の外遊びの様子を紹介することや、家庭でも積極的に運動に取り組んでいくよう促していく。
<p>健康・体力</p> <p>A16 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は好き嫌いなく給食を食べている(嫌いなものでも1口は食べている。) ⇒児童・保護者の肯定的回答80%以上</p>	<p>① 食育だより・給食だより・保健だよりのホームページの充実を図ると共に、学校栄養職員・養護教諭による授業を計画的に進め、食育指導に生かしていく。</p> <p>② 給食の時間に、好き嫌いの多い児童が嫌いなものを食べられたときは、称賛するとともに表彰する機会を作ることで自信をもたせる。また、学校での給食の様子を担当が意図的に情報発信する。</p> <p>③ おにぎりデー、お弁当の日のお知らせや計画カードなどの活用を通して、食の大切さを啓発していく。また、家庭との連携を図っていく。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 97.0% 保護者の肯定的回答率 82.2%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 給食週間やマナー週間などの取り組みを工夫して活用できた。苦手なものを少しでも食べ、残食を減らそうと呼びかけたり、完食した児童にごほうびシールをあげたりしたことで、児童と保護者の肯定的回答率は大幅に上昇した。 ・ 本校の給食の様子や食育の取り組みを、食育だより・給食だより・ホームページなどで、保護者や地域に発信することができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本年度に引き続き苦手な食材を食べられた子を称賛したり、食材や食事を作ってくれる人への感謝の気持ちを育んだりすることで好き嫌いを減らしていく。また、取り組みや児童の様子を保護者へ発信し、家庭とも連携を図ることを継続していきたい。
<p>B2 体力の向上を目指し、進んで活動している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「教職員は児童が水泳検定や縄跳び検定等の体力づくりに向けて努力するよう指導を工夫している」 ⇒児童の肯定的回答80%以上</p>	<p>① 水泳検定、縄跳び検定および、縄跳び大会を実施することで、児童が自らの体力向上を目指し、目標を持って、進んで活動できるようにする</p> <p>② うつのみや元気っ子プロジェクトミニマム達成に向けて運動プログラム集を活用する。児童の実態を次年度に引き継げるような記録を工夫する。</p> <p>③ 地域学校園の課題である「筋持久力」を向上できる工夫を検討していく。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 89.1%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度よりもわずかであるが、肯定的回答率を上昇させることができた。 ・ 検定を実施することで、多くの児童が目標をもって運動に取り組むことができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体育部を中心に各種検定内容について、必要に応じて見直していく。 ・ 「うつのみや元気っ子運動プログラム集」の活用を教職員に促し、児童の体力向上に努める。 ・ 「筋持久力」の向上に向け、業間遊びを推奨するとともに、体育におけるサーキット等を通して体力向上を目指す。

<p>A17 児童は、進んで学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は授業中に進んで話し合い、分かりやすく発表するなど、積極的に学習している。」 ⇒児童・保護者・地域の肯定的回答80%以上</p>	<p>① 「城西小よいこの一日学習編」をもとに、基本的な学習態度について共通理解を図りながら指導に当たる。</p> <p>② 児童の主体的な学びとなる授業展開を工夫する。</p> <p>③ 会話科の授業を充実させ、よく聴き分かりやすく発表する技能を高める。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 97.0% 保護者の肯定的回答率 92.6% 地域住民の肯定的回答率 100.0%</p> <p>・ 「城西小よいこの一日学習編」をもとに、基本的な学習態度について共通理解を図りながら学習指導を行うことができた。</p> <p>・ デジタル教材を利用するなど、分かる授業づくりに努力した。</p> <p>B</p> <p>・ 家庭学習では、保護者の協力を得るように発信し、地域学校園共通の取り組みである「宿題プラス1」の実践が定着してきた。</p> <p>【次年度の方針】 ・ 「よい子の一日学習編」をもとに、全職員が共通理解をし、継続して学習指導を行う。</p> <p>・ 会話科の授業も充実させ、よく聴き分かりやすく発表する技能を高める。児童の主体的な学びとなる授業展開を更に工夫する。</p>
<p>A18 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している。」 ⇒児童・保護者・地域の肯定的回答80%以上</p>	<p>① 「話者におへそを向け目と耳と心で聴く」指導を全学年とする。</p> <p>② 学年の発達段階に応じて自分の考えや意見を整理し根拠や理由を明確にした話し方の習得を図る。</p> <p>③ 学習のめあてを明確に示すことで、児童が進んで学習に取り組めるようにする。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 94.1% 保護者の肯定的回答率 89.4% 地域住民の肯定的回答率 100.0%</p> <p>・ 「話者におへそを向け、目と耳と心で聴く」指導を全学年で実施し、意識して話を聴かせるようにしてきた。</p> <p>・ めあてを明確に示すことで、児童がこの時間に学習することをしっかりとらえて学習に取り組めるようにし、児童が興味をもって自ら進んで学習していくようになった。</p> <p>・ 学年の発達段階に応じて、自分の考えや意見を整理し、根拠や理由を明確にした話し方を、各教科等で習得を図ってきた。</p> <p>B</p> <p>【次年度の方針】 ・ 今年度の方針を引き継ぐとともに、教科や単元に応じて少人数指導や T.T.などを活用していく。</p>
<p>A19 児童は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 児童が地域のボランティア活動や行事に積極的に参加できるように、案内等を保護者も含めて学年だよりやHPを活用し、周知徹底する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 98.9%</p> <p>・ 古賀志山清掃登山や夏の奉仕作業・資源回収など多くの児童が参加できた。</p> <p>B</p> <p>【次年度の方針】 ・ 活動によっては参加率のやや低いものがあるので、引き続き参加を呼びかける方法を工夫し、より多くの児童・保護者が参加できるようにしていく。</p>

	<p>B3 基本的な学習技能を身に付け、自分の伸びを自覚して、学習に意欲的に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、漢字や計算などの基礎の学習が児童に身に付くように指導を工夫している」 ⇒児童・保護者の肯定的回答80%以上</p>	<p>① 漢字や計算などの基礎的な学習の定着を図るための朝の学習では、1クラス2人体制で指導にあたる。</p> <p>② 児童の主体的な学びを身に付けさせるための授業の展開や形態を工夫する。</p> <p>③ 学習指導だよりを発行し、家庭に学校での学習の様子を知らせたり、家庭学習の大切さを啓発したりする。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 96.0% 保護者の肯定的回答率 94.9%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 100ます計算チャンピオン大会や漢字検定を計画的に実施することで、児童の関心を高め、基礎学力の定着を図ることができた。 ・ 2人体制の朝学習では、個に応じた指導が実施できた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 漢字や計算などの基礎が身に付くよう、100ます計算チャンピオン大会や漢字検定を継続し、2人体制の朝の学習の中で指導していく。 ・ 家庭学習の習慣付けを、保護者と連携しながら実態に応じて実施する。 ・ 朝の学習では、基礎基本の定着のための学習だけでなく、思考を深める学習や、主体的な学びにつながる学習にも取り組むようにする。
本校の特色・課題等	<p>B4 学校と地域・文化人と連携した学校教育活動を推進している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、保護者や地域住民・文化人と連携、協力した教育活動に積極的である」 ⇒保護者・地域の肯定的回答90%以上</p>	<p>① 学校支援ボランティアの組織を充実させ、地域協議会の地域コーディネーターを中心に、更に地域や保護者と連携させながら活動を展開していく。</p> <p>② 地域の自然を生かした教材のカリキュラム化を図る。地域の人々を積極的に講師として迎え入れた活動を行う。</p> <p>③ 豊かな感性を育てるため、芸術・文化の分野で活躍されている文化人の先生方による授業を行う。</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答率 97.1% 地域住民の肯定的回答率 92.9%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度も地域コーディネーターを中心に各種ボランティアにご協力いただき、学校のより良い教育環境づくりができた。各教科、文化人の先生方の授業などにご協力いただき、円滑に活動ができた。 ・ 文化人の先生方の授業では、どの学年の児童も充実した活動が行われ、豊かな感性を育むことができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域コーディネーターを中心とした学習支援ボランティアのさらなる活動の充実を図る。 ・ 文化人の先生方との連携を密にし、授業がきちんと積み重ねられるようにし、子供たちの豊かな感性を育てていくようにする。
	<p>B5 給食農園へのかかわりや農業体験学習を行い、食育指導との連携を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「農業体験活動を通して、大地の恵みに感謝する心を育てると共に食育の充実を図っている。」 ⇒児童・保護者・地域の肯定的回答90%以上</p>	<p>① 食や健康に対する関心を高めたり感謝の心を育成したりすることを目指し、給食農園で地域の方と連携を深め活動を充実させる。また、地域の食材の一層の利用に努め、安全でおいしい給食や特色ある給食を実施する。</p> <p>② 清掃時に学年ごとに給食農園の草取りや収穫を行うことで、感謝の気持ちを育て、食農教育の充実を図る。</p> <p>③ 食育だより・給食だより・保健だよりホームページ等の充実を図り保護者へも啓発していく。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 95.0% 保護者の肯定的回答率 98.0% 地域住民の肯定的回答率 100.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 給食農園や地産地消の食材を使った献立を作成し、安全でおいしい給食を実施することができた。また、それを毎日ホームページで発信することができた。 ・ 児童が収穫したものや地域で採れた食材を給食の時に紹介することで、愛情をもって食べることができた。 ・ 縦割り班で清掃時や全校行事で給食農園の草取りや収穫を行った。また、なかよし田んぼで田植えや稲刈りを地域や保護者のボランティアとともにやり、収穫したもち米を給食で食べることもできた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き給食農園やなかよし田んぼで地域の方や保護者と連携を深め活動を充実させるとともに、食農体験を通じて食に関する関心を更に高め、食育教育を充実させたい。

<p>B6 日本語や英語を使ったコミュニケーション能力を高めるための指導を推進している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「教職員は児童が日本語や英語を使って進んで表現したりコミュニケーションしたりできるよう指導を工夫している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 英語や日本語によるコミュニケーション能力を伸ばすために独自の会話科・外国語活動のプログラムを開発する。</p> <p>② 英会話タイムの充実と継続を全校体制で行う。</p> <p>③ 「英会話の時間」・「外国語活動」については、教科化に向けて、中学校へのつながりを意識した研究を推進する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 97.0% 教職員の肯定的回答率 100.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度よりも児童の肯定的回答率を上回ることができた。 ・ 教科化を踏まえ、今年度も充実した校内研究を行うことができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 英会話タイムを含めた年間指導計画の内容・時数の再検討を行う。 ・ 2020年度の「外国語」教科化に向け、引き続き研究を推進していく。
<p>B7 学校全体で読書活動を積極的に推進している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校の読書は充実し、教職員は子供たちが読書に興味を持つように指導を工夫している」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 読書活動の充実を図るために、朝の読書タイムを充実させ、読み聞かせボランティア等による読み聞かせなどを行う。</p> <p>② 教科や総合的な学習等、学習と関連のある図書を意識的に紹介し、様々なジャンルの本への興味づけを行う。</p> <p>③ 図書館便りを更に充実させ、読み聞かせの様子や読書活動の重要性を保護者へも知らせる。</p> <p>④ 学年毎に家庭と連携した読書リレーを実施し、クラス全員で同じ本を読み、親子で本に親しむ機会を作る。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 92.1% 保護者の肯定的回答率 79.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館だよりや長期休暇の家読、読書リレーなど、保護者への読書の啓発を積極的に行った。今年度は保護者に学校で行っている読書活動を周知してもらうために、更に以下のことを改善した。 <p>① 親子読書リレーを2冊から4冊へ増やす。 ② 家読の記録を多くの人が読めるように1階に掲示する。</p> <p>その結果保護者の肯定的回答率は昨年度より上がったが、まだ目標には届かない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書委員会児童による図書館でのイベントも充実し、読書の楽しさを児童自身の手で広げることができた。 ・ 読み聞かせボランティアや6年児童による読み聞かせ、読書週間の教職員によるシャッフル読み聞かせ等は今年度も実施した。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度家読の記録を1階に掲示したことで、より多くの保護者が目を止めてくれた。そこで次年度は、1階廊下に読書コーナーを常設して、本の紹介や家読の記録を掲示し、より多くの方々に学校の読書活動を周知していただく。 ・ リレー読書4冊は、親子で本に親しむよい機会となったので引き続き継続する。 ・ 本や新聞などを利用した学習の様子を、図書だよりや学年だよりに掲載し、そうした学習が家庭学習へ広がるように啓発する。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

総合的にみると、26項目うち24項目で数値指標を達成することができた。また、19項目のうち16項目で市の平均より数値が上回っている部分があり、望ましい状況である。

児童の評価では、22項目のうち全項目で数値目標を達成しており、児童が学校運営や学習指導を肯定的にとらえるとともに、主体的積極的に学校生活を送っているものと考えられる。保護者の評価では、22項目のうち20項目、地域住民の評価でも、18項目のうち全項目が数値目標を達成しており、学校の取組や児童の学習、生活状況に対して、肯定的な評価がなされている。

特に達成度の高い項目(達成度95%以上)として、児童アンケートでは、「教職員の児童を認め、教えるべきことを熱心に教える姿勢」「教職員のわかりやすい授業やきめ細やかな指導」「いじめが許されない行為であることをしっかり指導する姿」「地域・企業との連携した授業」「学校の学習しやすい環境」「時と場に応じたあいさつ」「学校生活の充実」「好き嫌いなく給食を食べている」「話し合い活動

など学習への取り組み」「漢字・計算など基礎的な学習の習得」「農業体験活動を通して大地の恵みに感謝し食育の充実」「会話科の充実」など12項目にあがり、教職員の学習指導を中心とした取組が児童に評価されている。保護者アンケートでは、「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気」「教育活動や学校運営の充実」「教師の指導」「きまりやマナーを守っての生活」「教育課程の適切な実施」「学校の積極的な情報発信」「家庭・地域・企業との連携」「学習環境」「異学年交流の様子」「農業体験活動を通して大地の恵みに感謝し食育の充実」等10項目となっており、本校の小規模特認校としての取組を評価していただいていると思われる。地域住民アンケートでも、児童・保護者と同様の項目をはじめ「農業体験活動を通して大地の恵みに感謝し食育の充実」の小規模特認校の継続を中心に16項目が達成度100%となっており、学校の取組を評価していただいている。

昨年度と比較して達成度が向上した項目は、昨年度課題であった「児童は、休み時間や放課後などに積極的に運動している」で、保護者の評価が16.4ポイント、また「時と場に応じた言葉遣い」が9.0ポイント、「時と場に応じた挨拶」が8.0ポイント、「嫌いなものでも一口は食べている」が5.5ポイント、「読書」が5.1ポイントなど16項目で向上した。児童の評価では、「会話科の充実」が7.4ポイント、「休み時間や放課後の運動」が6.9ポイント、「好き嫌いなく給食を食べている」が、4.7ポイントそれぞれ昨年度の結果より向上した。地域住民の評価では、「時と場に応じた挨拶」において5.3ポイント向上しており、全教職員での熱心な取組が実を結んできていると考えられる。

本校の重点目標である「会話科」「食農教育」「体幹を鍛える運動」の具体的な取組については、すべての項目で肯定的な評価をいただくことができた。学校の取組みが保護者や地域にも理解されていると考えられる。

今年度、肯定的回答率が設定した数値指標に満たない項目は、下記のとおりである。

◇ 肯定的回答率の低かった質問事項

【保護者】

- ・ 児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている。(数値目標 80% 肯定的回答率 79.0%)
- ・ 自分子どもは本を読むのが好きである。(数値指標 80% 肯定的回答率 79.0%)

◇ 改善に向けた基本方針

- ・ 「時と場に応じた適切な言葉づかいをしている。」は、保護者の回答率は、昨年度に比べ 9.0%上回ることができたが、数値目標の80%にわずかに届かなかった。しかし、児童の肯定的回答率が、5.9%下がってしまった。保護者は、児童の言葉遣いの改善を認めつつあるが児童は昨年ほどできていないと感じている様子である。正しい言葉遣いができるよう更に徹底して指導していきながら、できた場面できちんと認めるなど細かな指導を根気強く継続して行っていく。次年度も学活や道徳の時間を通し、目の上の人に対する言葉遣いなど、具体的な場面を設定して指導する。
- ・ 読書については、今年度も各学年でリレー読書を実施し、親子で本に親しむ機会を作るのに効果を上げた。家読の様子など図書館での取り組みや児童のお勧めの本などを廊下や昇降口に掲示したことや、図書だよりの充実を図ることができた。読み聞かせボランティアや6年児童による読み聞かせ、読書週間の教職員によるシャッフル読み聞かせ等が実施でき、児童の肯定的回答は前年度よりやや高くなった。保護者の肯定的回答も5.1%上がったが目標値にはわずかに達しなかった。今後は、日常的に読書ができる環境づくりに取り組み、児童が更に読書に親しめるようにしていきたい。また、学年だよりも図書館での学習の様子を掲載することで、更に家庭と連携を深めていく。

◇ 更に充実させたい取組

- 給食農園・なかよし田んぼへの児童・保護者のかかわり方を見直し、食農教育の充実に取り組む。

6 学校関係者評価

学習支援部会

- ・ 体育祭や農業祭・文化祭など地域行事が重なる日は少なくないが、子供たちはずいぶん参加してくれている。互いに協力し合える関係を継続し伝統となるようにしていきたい。さくら村の29戸の新しい住民も協力していただいている。
- ・ 回覧板で配布物を回しても取らずに戻ってきてしまう場合も地区により出てきている。周知徹底できるよう計画的に様子を見ていきたい。
- ・ 本校で学んだ卒業生がリターンしてくれるようにしていきたいものだ。

広報部会

地域協議会の広報活動の改善の視点で話し合った。

- ・ 紙ベースでの工夫は十分なされている。
- ・ HPの更新を計画的にしっかりやれるとよい。動画を入れるなどの工夫をしてみてもどうか。
- ・ 桜スクールの掲示板を保護者への啓発等に有効活用してみてもどうか。
- ・ 学校で掲示してある写真を使用後に配付してもらえたらありがたい。

地域連携部会

- ・ 学校評価の正しい言葉遣いの項目は保護者の肯定的回答が達成できなかったが、本校の特色でもある小さな学校ならではの大人と子供の距離が近いという部分でもあるので一概に問題だと指摘しなくてもよいのではないか。
- ・ 読書の項目では、昨年度に比べて数値が上がっており、学校としての取組の正しさが認められたものと考えられるだろう。今後もぜひ継続して欲しい。
- ・ 給食の項目でも改善が見られた。縦割り班での食事の仕方など、本校の特色でもあり、楽しく食事ができているのであろう。苦手なも

のでも一口は食べるという取り組みや食べ切れるように自分で減らすなど、自分で頑張ろうとできることがよいと思う。

・本校で継続している英語の取り組みが中学校での英語の成果にどうつながっているのか確かめてみたい。

各委員から

・保護者が読み聞かせ・ポタジェ・リペアマム・インテリア・チョコボラなど、積極的に学校に関わってくれていて感じがよい。

・親が協力している姿を見せることは大切なことだ。

・映画も完成し、今度の桜まつりにも人が多いことが予想される。みんなでがんばっていききたいものだ。

・地域コーディネーターがボランティアを募集するのにいろいろと工夫されていてありがたい。

7 まとめと次年度へ向けて(学校関係者評価を受けて)

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

次年度へ向けて次のような方策を考えている。

1 基礎的・基本的内容の定着と思考力・コミュニケーション能力の育成

・分かる授業の工夫(ペア学習やグループ学習など学習形態の工夫・めあての提示と振り返りの確実な実施)

・基礎基本を徹底する時間及び思考力を伸ばす時間の設定(2人体制の学習の時間の充実)

・相手を意識した会話科「ことばの時間」の充実と他教科・領域との関連

○「英会話の時間」「外国語活動」の中学校への学びの連続性を持たせる指導についての研究推進継続

2 食農教育の継続・充実

・食と農に関する学習活動・体験活動の展開(給食農園・なかよし田んぼ・地域ボランティアとの連携)

・食育の充実(ランチルーム給食・お弁当の日の活用)

・給食の様子を家庭への情報発信と連携

3 体力づくりに向けての取組

・体力づくり(体幹を鍛える運動の継続・体育でのサーキット運動)

・たくましい心と体の育成(各種検定の充実・うつのみや元気っ子プロジェクトへの参加・群れ遊びの奨励)

4 児童指導の充実

・児童のよさをほめる場の設定

・学級活動, 特別の教科道徳の充実

・いじめ防止に関する積極的な情報の発信(具体的な取り組みの紹介, いじめに関するアンケート結果, 教育相談の結果等)

・家庭や地域との連携(相手を尊重し, 適切な言葉遣いができるような指導)

5 家庭との連携強化

○あいさつ(学校で, 家庭で, 地域ぐるみで, 城山地域学校園であいさつ運動の推進)

・家庭学習の定着(家庭学習スタンダード・自主学習)

・読書のすすめ(家読の励行・読書リレーの継続)

・学校での読書活動の様子について家庭への情報発信の充実